



校長室の窓

令和7年9月25日
学校だより第6号より

～敬老帳がつなぐ心～

今年も15名の子供たちが心を込めて作った「敬老帳」第57号をお届けします。毎年、学区の全戸に児童の感謝の思いを綴った冊子をお届けし、地域の皆様と心を通わせてきました。この活動は令和5年度に気仙沼市教育功労者表彰も受けています。

敬老帳には、子供たちの素直な思いが込められています。「読み聞かせて楽しい時間を作ってくれてありがとうございます。」「行事に参加していただき、楽しく生活できます。」「学校の周りをきれいにしてくださる姿に感謝します。ぼくたちも地域の伝統を受け継いでいきます。」「毎日おはようと声を掛けてもらいました。このあたたかさはハ瀬にしかありません。」一つ一つの言葉が、地域に支えられて育つ子供たちの気持ちを映し出しています。

夏休み前からメッセージの下書きを始め、推敲を重ねた原稿を印刷し、先日は全員で帳合作業をしました。委員会の児童は巻頭の作文執筆や製本作業の進行を担い、5・6年生が下級生を導きながら全戸分の冊子を完成させました。子供たちそれが役割を果たし、協力して仕上げる過程そのものが大切な学びとなっています。

昨年度、本校が保存している敬老帳が平成9年度第29号からであることをお伝えしたところ、地域の方からさらに古い冊子を寄贈いただきました。最も古いものは昭和48年度のもので、おそらく第5号にあたります。巻頭には当時の校長の「子供たちの発想によって、常日頃お世話になっている地域の皆様に、子供たちの手で綴った作品敬老帳をおくることになりました」との言葉が記され、作文や絵、書写の原本がそのまま綴られていました。

当時の小学生は今の60歳代の方々であり、親子三代にわたり関わってきた家庭もあることでしょう。「敬老の日」に合わせて半世紀も冊子を制作・製本し続けている学校は、全国でも月立小だけであると考えます。

写真に写る子供たちの笑顔、そして一人ひとりのメッセージから、地域への感謝の思いを感じ取っていただければ幸いです。長年にわたり子供たちが地域の皆様に支えられてきた歴史に、あらためて敬意を覚えます。今を担う校長として、このつながりに深く感謝し、今後も変わらずにご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。